



もうすぐ冬休み！

日が暮れるのが早くなってきました。日々寒くなり空気が澄んできたせいか、クリスマスのイルミネーションもひときわきれいに見え、わくわくしてきます。いよいよ今年もあと一ヶ月となりました。今年できるようになったことや来年目標にすることなど整理して新しい年を迎えましょう。



テラメニ ～手を目に～

人の手の感覚は、指先がもっとも敏感な構造ですが、小さな「点」の情報を集めても全体像を知ることはできません。見えない・見えにくい子どもには、それぞれの点を端から端までつないで面や立体と認識するための、連続性が必要です。判断するためには、まず大きく「面」で捉えることから始めるのが近道です。

小さなものなら、まずは手のひらで包むように持ってみます。手に収まりきらないなら、腕で抱えてみるなどで自分の大きさと比較もできるでしょう。手のひらで感じると全体の大きさだけでなく、カドを知ることができます。カドは、連続性の始点になる、大切な基準点となります。基準点がない触察では、全体を知ることができません。

たとえば、椅子のような大きなものを触察する場合、わかりやすい部分（背もたれなど）に両手を始点に置き、そこから片方だけをスライドさせながら動かして距離と曲がりを感じます。動かした片手を始点に戻し、反対側の片手だけを今度は別方向に動かします。慣れてくれば両手を同時に動かして全体を理解できるようになるかもしれませんが、最初から両手を動かしてしまうと、始点を見失って迷子になりやすいので避けましょう。

もちろん触察の初心者には、周囲からの声かけで情報を補ってあげることも大切です。その際に注意すべき点は、声かけで先入観を与えないことです。たとえば、カエルやナメクジを「やだ！又ル又ルだ」「うゑ～、気色わる。」などと、大人が気持ち悪がっている様子を聞いてから「さあ、触ってごらん」と言われると、子どもはその手触りをどう感じるでしょう？又ル又ルねちゃねちゃの感触が、「気味が悪い」雰囲気という言葉と結びついて定着し、ほかの粘りのあるもの（絵の具や山芋など）を触りたくないと感じて、苦手にしかねません。

「柔らかくて持ちにくい？すべっちゃうね」のように、触ることに抵抗を感じない言葉かけを心がけたいと思います。

触れることは、子どもが持っている大切な「知る能力」です。どんどん伸ばして、手を目にしていきましょう。



文化祭

「Let's go! Let's enjoy! ～さあ みんなで楽しもう！～」

11月7日（土）に、本校で文化祭が行われました。オープニングは、中学部全員による和太鼓で盛大にスタートし、午前中はステージ部門、午後からは展示部門と、幼児児童生徒たちの一生懸命な姿を見ることのできる充実した文化祭になりました。その様子を紹介いたします。

ステージ部門

中学部
「和太鼓」



幼小学部

「演劇・11匹の子ヤギ」



高等部
「箏演奏」



中学部
「ハンドベル演奏」



音楽部
「ブラスバンド&歌」



それぞれ今までの練習の成果を精一杯発揮し、とても素晴らしいステージでした！

展示部門



理研部クイックマッサージ



茶華道部



高等部作品販売

幼児児童生徒による作品展示や、大人気！！理療科によるクイックマッサージ、PTAバザー、作業所の製品販売等、たくさんのブースがあり、各ブースとも盛り上がっていました。お昼は、PTAの食品販売が大好評でした。